

第45回宇宙安全保障部会 議事要旨

1. 日時

令和3年11月25日(木) 10:00~12:00

2. 場所

内閣府宇宙開発戦略推進事務局大会議室

3. 出席者

(1) 委員

青木部会長、片岡部会長代理、遠藤委員、久保委員、白坂委員、鈴木委員、土屋委員、中須賀委員、名和委員

(2) 事務局

宇宙開発戦略推進事務局 河西局長、岡村審議官、藤重参事官

(3) 関係省庁

内閣官房国家安全保障局 企画官 近藤 亮治

外務省総合外交政策局 宇宙・海洋安全保障政策室長 倭島 岳彦

防衛省防衛政策局戦略企画課長 田邊 英介

海上保安庁警備救難部警備情報課 船舶動静情報調査官 八田 真治

水産庁資源管理部漁業取締課長 高屋 繁樹

(4) 有識者

公益財団法人笹川平和財団 海洋政策研究所 特別研究員 渡辺 忠一

4. 議事要旨 (○：委員からの質問・意見等 ●：事務局からの回答等)

(1) 「海洋状況把握における宇宙の利活用」について、資料1に基づき説明が行われた後、次のような議論が行われた。

○24時間化するためにも、広域をカバーするためにも、数が必要であることから、いかに安く作るかが大事。また、世界の議論に日本としてもしっかり意見を発信していくことが大事。

(2) 「漁業取締りににおける衛星船位測定送信機(VMS)の活用」について、資料2に基づき説明が行われた後、次のような議論が行われた。

○VMSの設置対象は大臣許可船のみか。

●大臣許可船のみである。都道府県が許可する沿岸漁業を行っている船舶にも制度上は設置可能だが、現状は設置していない。

- (3)「衛星データ等を活用した AI 分析技術開発」について、資料3に基づき説明が行われた後、次のような議論が行われた。
- ソリューションまで見据えて開発されており、すばらしいので ぜひ推進してほしい。
 - 高頻度観測などのための画像衛星コンステレーションや信号情報を収集するいわゆる SIGINT (シギント) 衛星について強いニーズやフィードバックを発信・検討して欲しい。
- (4)「令和3年度の机上演習 (TTX)」について、資料4に基づき説明が行われた後、次のような議論が行われた。
- 令和2年度の机上演習において得られた知見について、どのように反映されているか。
 - 今年度は、内閣官房とも連携し、政府部内の動きを踏まえた形に改善した。
- (5)「宇宙基本計画工程表の改訂 (安全保障分野)」について、参考資料1～3に基づき説明が行われた後、次のような議論が行われた。
- 宇宙状況把握に関して、SSA 衛星等への推薬補給及び高軌道推進技術等の検討については、今後、それで得られた知見が民間にスピンオフされる可能性はあるか。
 - 来年度はまだ技術的な研究に至らない調査段階であり、今後の検討による。
- 安全保障に限らず、工程表は着実に進展してきているが、まだまだ世界のスピードに追い付いていない。
 - 各種能力の強化のための施策として、参加した、実施したという経験の蓄積だけでなく、どのように能力を構築していくのかをより具体的に示すべき。

以上